

国史跡飯盛城跡

パンフレット

四條畷市教育委員会
大東市

戦国時代末期の城の様子を色濃く残す城跡

国史跡 飯盛城跡



天下人

三好長慶



聚光院蔵

みよしながよし

三好長慶 (1522-1564)

長慶は室町幕府13代将軍足利義輝を京都から追放し、政治の実権を握った武将で、永禄3年(1560)に飯盛城に入城しました。近年、織田信長に先駆ける最初の天下人と評価されています。

飯盛城跡 の特徴

飯盛城跡の大きな特徴は石垣を多く用いていることです。これまでは部分的な使用と考えられてきましたが、城域

全体で分布調査や測量調査を進めた結果、全域に石垣が用いられた可能性が高まりました。織田信長が築城した岐阜城や安土城に先行し、“織豊系城郭”の3要素である石垣や礎石建物、瓦を取り入れた本格的な「石垣づくりの城」です。

飯盛城跡は大阪府大東市・四條畷市にまたがる飯盛山の山頂に築かれた戦国時代末期の山城跡です。城域は東西約400m、南北約700mを測り西日本有数の規模を誇ります。

享禄3年（1530）に木沢長政^{きざわながまさ}の居城として文献上はじめて登場し、城主は交野出身の国人安見宗房^{やすみむねふさ}を経て永禄3年（1560）には天下人・三好長慶が居城とします。そして京都と五畿内、四国の一部を支配する三好政権の拠点であるだけでなく、「飯盛千句」という歌会を催すなど文化交流の場ともなりました。現在に残る城跡は飯盛城が城郭としての機能を失う永禄12年の頃の姿を留めていると考えられます。

国の文化審議会でこのような飯盛城跡の歴史的価値が認められ、令和3年10月11日に国の史跡に指定されました。



礎石とは建造物の基礎となる石のことです。

VIII郭（千畳敷郭^{せんじょうじきかく}）やIX郭（南丸^{みなみまる}）では礎石がみつかり、礎石建物の存在が推定されます。



そせきたても
礎石建物

石垣は野面積み、石材は花崗岩^{のづらづ}です。石垣の集中している付近には露岩^{ろがん}が確認され、石材はそれらを採石していたと考えられます。



石垣

城内の各所から瓦がみつきり、一部の建物に利用されていたことを示しています。戦国時代の後半になると、近畿地方では瓦を用いる城郭が出現します。



瓦

赤色立体地図

飯盛城跡の構造

飯盛城跡はI郭（高櫓郭^{たかやぐらかく}）の南側にある堀切によって南北にエリアを分けることができます。

北側の主尾根に築かれた各曲輪は面積が狭く、曲輪間の高低差が大きい。一方、南側のⅧ郭（千畳敷郭）などでは広い曲輪が築かれています。

このことから、北エリアは防御空間、南エリアは居住空間として機能したと考えられます。

縄張り図



凡例

- 曲輪・土塁
- 石垣
- 堀切・塹壕
- ハイキング道

0 100m 250

居住域の遺構・遺物

虎口とは城の出入りを指します。飯盛城跡にはⅧ郭（千畳敷郭）の南に東西に石垣を築いた虎口が構えられています。

虎口に複雑な折れなどは見られませんが、石垣の間を通る通路は西側に湾曲しており、直接曲輪を見通せないように工夫されています。

虎口の西側に位置するⅨ郭（南丸）と一体となって城の南側を防備したと考えられます。



こぐち
虎口



くるわ
曲輪造成の盛土

Ⅷ郭（千畳敷郭）では、広大な曲輪を造成するために、土を削ったり盛ったりする大土木工事が行われたことが発掘調査で判明しました。

尾根の西側の土を削り、それを北東傾斜面に10～20cmの厚さで平らに薄く十数回敷きならす工法で盛土をして平坦面を広げており、その厚さは深いところで約2mありました。

Ⅸ郭（南丸）は城の中でも最南端に築かれた曲輪で、南エリアの防御を担っていたと考えられます。

Ⅸ郭では壁土がみついています。外面には化粧土や漆喰は見られず、荒壁であったと考えられます。

壁の骨組みとなる竹で組まれた木舞は残存していませんが、木舞痕が残っていました。



かべつち
壁土

軍事・宗教域の遺構・遺物



石垣

飯盛城跡の石垣は花崗岩の自然石を積んだ野面積みで、石材は垂直に近い角度で積まれています。

石垣の中には一段目を積んだ後に平坦面を設けて二段目を積む段築状石垣や構造を補強するために隅角部を築いた石垣が見られます。

石垣からは戦国時代の土木技術を知ることができます。

塼とは焼き物のタイルのことです。

V郭（御体塚郭）では周辺の石垣調査で瓦が見つかったことから建物の存在の有無を確認するため発掘調査を行った結果、約30cm四方の塼が並んだ状態でみつかりました。

この発見された塼列建物は約4×6mの規模と推定しています。



せんれつたてもの
塼列建物



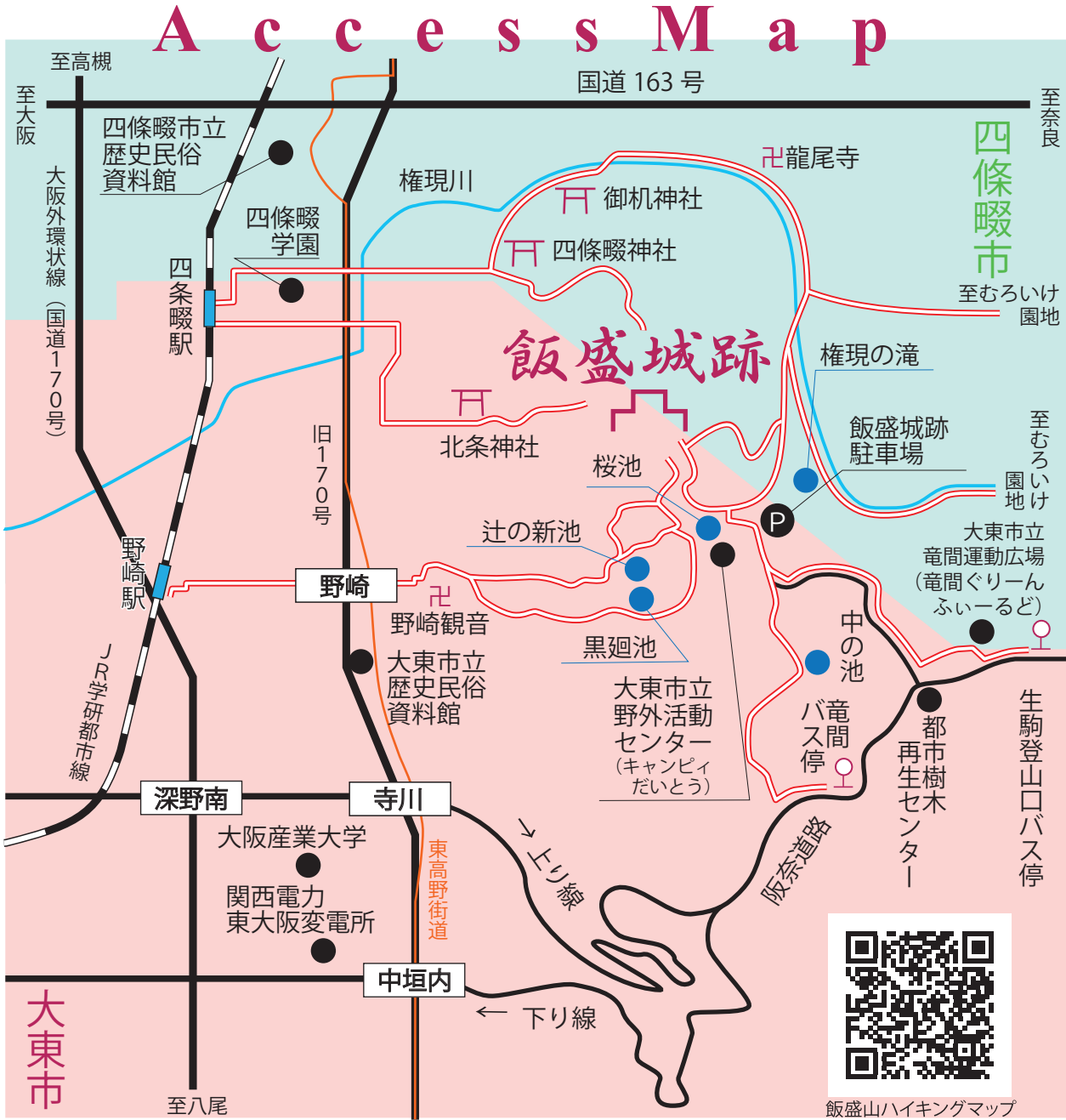
台付皿

塼列建物付近で見つかった台付きの皿（高さ2.6cm）。

似た形状のものに「ごんぱい」という春日大社（奈良市）で使用されている台付きの皿があります。

奈良には三好長慶の家臣松永久秀が居城とした多聞城があり、飯盛城との間で活発な行き来があったとみられ、両者の関連が想定できます。

この皿が見つかったV郭（御体塚郭）は宗教的な空間だった可能性があります。



ACCESS

電車・バスをご利用の場合

- ・JR学研都市線 四條畷駅・野崎駅を東へ(徒歩約100分)
- ・JR学研都市線 住道駅から
近鉄バス 龍間バス停下車して北へ(徒歩40分)

※JR学研都市線 住道駅・四條畷駅周辺には
コインパーキングがあります。

車をご利用の場合

第二京阪道路大阪方面から寝屋川南IC・京都方面から寝屋川北IC下車。国道170号(大阪外環状線)を南(四條畷・河内長野方面)へ。深野南交差点を左折、阪奈道路(府道8号線)を奈良方面(東)へ。竜間交差点(1つ目の信号)を通り過ぎる。200m先の左手に「楠公寺」や大阪産業大学の「生駒キャンパスグラウンド入り口」看板を左折。道なりに約10分(大阪桐蔭グラウンド奥)。大東市立野外活動センターの向かい、飯盛城跡駐車場。

国史跡飯盛城跡パンフレット

令和4年9月30日 初版 第1刷 発行

発行 四條畷市教育委員会教育部スポーツ・文化財振興課(編集)
大東市産業・文化部生涯学習課
印刷 株式会社ミラテック

大東市印刷物番号

4-46